海の学び ミュージアムサポート　Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

海の博物館
伊勢志摩サミット開催記念特別展「浮世絵から見る海女」

開催期間：平成２８年3月１９日（土）～平成２８年7月１０日（日）

【企画展の内容・目的】

■海女を描いた浮世絵を多数紹介し、描写された海女の習俗を通じて、優れた漁獲技術や地域に息づく信仰、海産物と食、漁村共同体における女性の暮らしなど、海と人との結び付きを幅広く解説しました。

■浮世絵の描写と対応した実物資料（アワビを獲る道具、海藻を刈る鎌、装束類、絵本他）を共に展示することにより、浮世絵から見てとれる海女の習俗、漁法や海辺の暮らし、伊勢志摩の海の豊かさ等に対して具体的なイメージを持ち、理解を深めやすくしました。

■講演会により展示内容の理解を深化させ、海藻の刈り取りや貝紫染めを通じ海産物利用や海女の信仰、漁法について体験的に学ぶなど、興味や理解をさらに深める充実した関連事業を実施しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１．企画展示の内容

■開催期間：平成２８年３月１９日（土）～平成２８年７月１０日（日）

■開催場所：海の博物館特別展示室

■入場者数：7583 人

海の博物館　外観

特別展示室　入口

- 志摩半島の海女を描いたと考えられる浮世絵作品を７点紹介し、海女が当地域を代表する漁法、文化として、江戸時代の都市部に住む人々にも認識されていたことを伝えました。
- 伊勢参宮をする人々に提供された海の幸や神宮の神饌に使用する海産物は、志摩半島から多くもたらされていることを浮世絵から解説し、伊勢神宮及び日本の伝統的な信仰と海女、海の恵みである海産物との深い結び付きを紹介しました。
- 原則、室内は撮影禁止としましたが、浮世絵（江戸時代）の一部を拡大した懸垂幕を設置し、記念撮影してもらうコーナーを設けたことにより、簡素な道具のみを用いる原初的な海女漁の伝統を印象的に伝えるとともに、地域ならではの生業・文化である海女に対して親近感を持ってもらうことができました。
- 海中ですばやく、丁寧に獲物を採捕する海女たちの優れた技術を観覧者が体感し、その習俗に対してより興味を持ってもらうため、岩場に付いたアワビを、簡素な道具（ノミ）ではがす疑似体験ができる模型を制作・設置し、地域の伝統的な海女漁法に親しんでもらいました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

- 「玉取姫伝説」「源為朝と海女」「在原行平と村雨・松風」など各地に残る海女の伝承を題材にした浮世絵を多数紹介することによって、海女が古来日本の沿岸部に広く分布し、特徴的な海の生業が各地域に深く根付いていたことを紹介しました。
- 海女の伝承が能や浄瑠璃など伝統芸能の題材として好まれたことから、海女が江戸時代以前から日本人の心を惹きつけ続け、今日まで受け継がれてきた歴史を知ってもらうことにより、海の文化が与える影響の大きさや、ながく続く伝統を紹介する機会となりました
- タコは海女とともに描かれることが多く、展示室内の浮世絵にて描かれているタコの数をクイズにするなど、子どもたちにも図の細部にまで目を向けてもらい、海女の浮世絵とそこに表現された海女習俗に関心を高めてもらうことができるよう解説を工夫しました。
- 海女に関する伝承を収載した民話集や絵本を自由に見られるコーナーを設け、展示を見て興味を持った内容について、自主的な学習が進められるようにしました。

- 「海女の子育て」「獲物をとる道具」「海女の装束」などのテーマで、浮世絵のなかで海女が使用する道具、子どもの描写、アワビの大きさなどに着目し、素潜りの漁法が守られていること、これにより獲物のとり過ぎを防ぎ、自然の共生を可能にしてきたこと、育児と仕事の両立を可能にした漁村共同体の在り方などについて、可視的に理解してもらうことができました。
- 展示では浮世絵の描写内容に対応させ、採捕の道具や装束など民俗資料を配置し、海女の漁法や技術をよりイメージしやすくしました。
- 小さなアワビは海に返すための計測道具“スンボウ”とアワビ殻、アワビの模型を用いて、アマオケ内に漁獲可能なものがいくつあるか、クイズ形式で観覧者に数えてもらうコーナーを設けたことにより、実際に観覧者がアワビの計測を体験し、海洋資源の保護と持続的利用の重要性を学んでもらうことができました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

- 全国の操業地で製作・販売された人形や絵葉書等を、韓国も含めて一堂に展示することにより、海女漁は広く海浜部で営まれてきた、伝統的習俗であることを実感できるようにしました。また南房総では短いパンツのような装束の海女人形が多数登場するなど、各地で風土に応じた多様な漁業形態があることを理解し、様々な海の民俗を知ってもらうことができました。
- 伊勢志摩の海女土産には真珠、茨城県松島の土産にはカキを使ったものが多く見られるなど、各地域を象徴する海産物についても理解を深めてもらうことができました。
- 明治から昭和初期にかけての観光パンフレット、水産博覧会や水族館関連資料宝くじなどにも、注目を集めるためのメインとして海女がデザインされていることを実物から伝え、海女文化が、国内外でながく人々を惹きつけ続けてきた歴史を感じ取ってもらうことができました。

【来館者の声】

◯海女の子育てのコーナーが面白かった。歴史のなかで海が舞台になっているところがたくさんあるんだなと思った。

〇浮世絵が好きなので、とても興味深く見学しました。昔の方が残してくれた海を大切にしないといけないと強く感じました。

◯北斎などとても有名な絵師も海女さんを題材として捉えていたのは驚きでした。

〇海女の浮世絵は初めて見たので面白かったです。アワビが大きく描かれているのにびっくりしました。むかしはあのような大きなサイズのアワビが当たり前のように採れたのでしょうね。

◯アワビの大きさを測る道具がとても面白かったです。資源を大切にする海女文化は素敵だと思いました。アワビを外す道具を手に取ってみて重く感じました。大変な仕事なのだと勉強になりました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．関連事業の内容

■①海女がとる海藻　ワカメ・ヒジキを刈り取ってみよう

【開催日時】平成 28 年４月 23 日（土）11：00 ～ 14：30
【開催場所】海の博物館映像ホール及び周辺の海浜部
【参加者数】１２人
【実施内容・目的】

●干潮時に磯へ出て、ワカメやヒジキを刈り取る体験をしました。浮世絵でも鎌で海藻を刈ると思われる海女が描かれており、実体験を通じ、海藻も海女たちの重要な漁獲物であることや、豊かな海産物を育む志摩半島の海の環境について学びました。

●刈り取ったヒジキは専門業者に加工を依頼し、後日参加者へ送付して食してもらうことで、海産物の食利用に対し関心を高めてもらいました。

海藻も海女の重要な漁獲物であることを解説

加工していないヒジキは褐色

一般的に販売される、加工して黒くなったヒジキしか見たことのない参加者がほとんどで、もとはどのような海藻であるのか（弾力のある褐色の海藻）、どのようなところに繁茂しているのか（磯の潮間帯）、実際に見て知ることで、海藻そのものや海産物の食利用に対して、多くの参加者が関心を高めている様子でした。
また志摩半島の海藻は全国的にも高品質なものとして認められている高級品であることを解説し、それらを育む当地域の海の豊かな環境を感じ取ってもらうことができました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

海女さんの気分になって実際にワカメ・ヒジキを刈り取ってもらい、潜水をしてアワビやサザエをとるだけではない、海女漁の多様性を学んでもらいました。
普段家庭で見ているワカメ・ヒジキは黒くて軽いものであるため、刈り取った海藻の意外な重さに子どもたちは驚いていました。またメカブがワカメの一部であることなどを初めて知り、普段の食生活のなかにある海産物の利用に対して意識が高まり、今後の自主的な学習へ繋がることが期待されます。

磯ではワカメやヒジキを刈り取っている最中、アメフラシや小さな魚も観察しました。海女漁や海藻の学習と併せて、海の生物への関心を高める機会にもなりました。
刈り取ってきたワカメは各自が持ち帰り、ヒジキは天日干しをしたうえで、後日専門業者（株式会社　北村物産）に協力を得て加工してもらい、参加者宅へ送付しました。食品の具体的な製造工程を学ぶとともに、自身が採取した海藻を食することによって、海産物の食利用とそれを持続させてゆくための環境保護の重要性を感じる機会となりました。（協力／鳥羽磯部漁業協同組合浦村支所、海づくりプロジェクト）

【参加者の声】

◯ワカメやヒジキがある場所を知ることができました。海藻だけでも色々な種類があり、もっと知りたいと思いました。

◯メカブがワカメの一部とは知らなかったです。特別な体験ができました。

◯ウミウシやアメフラシも見られて楽しかった。普段見ることができない生き物を見ることができてよかった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■②ミュージアムトーク

【開催日時】平成 28 年 4 月 29 日（金・祝）～5 月 1 日（日）11:00～11:30
【開催場所】海の博物館映像ホール・常設展示室・特別展示室
【参加者数】28 人
【実施内容・目的】
●展示内容をより深く理解してもらうため、画像を多数用いてパワーポイントで海女の浮世絵について解説し、海女に関する代表的な民話である宮子姫伝説（和歌山県日高川町・御坊市）の読み聞かせも行いました。
●後半は海女の常設展を見学しつつ、特別展示室内にて、展示資料に関し個別に解説しました。参加者への質問・クイズも取り入れて解説し、多くの絵師や民衆を惹きつけた海女の特性・魅力をわかりやすく伝えました。

作例をできる限り多く示しながら、多数の著名な絵師が海女を題材にしており、神秘的とも捉えられた潜水能力や、女性らしい美しさが浮世絵を作る側、買う側ともに魅了したことを実感してもらいました。また志摩半島の海女を描いた浮世絵では、時代ともに次第に海女は絵のなかの脇役から主役へと変わっていったことを解説しました。
上記のような内容を簡潔に、わかりやすく紹介したことにより、海女や海の民俗自体が江戸時代に多くの関心を集め、志摩半島を代表する文化として海女漁への理解が高まっていったことを学ぶ機会となりました。
併せて民話 宮子姫（和歌山県日高川町・御坊市）を読み聞かせし、日本に根付いた海への信仰をもとに、古くから海女に尊敬や関心の目が注がれていたことを感じ取ってもらいました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

漁法、道具、漁獲物、信仰など海女漁の基礎的な学習のため、常設展示室にて展示資料の解説をしました。
志摩半島では 2000 年前のアワビを獲る道具が出土していること、アワビやサザエ以外にもナマコや種々の海藻など、一年中なにかしら海女が獲るものはあること、80 代の海女も多数いることなどを、一部資料に触れてもらいながら解説しました。
非常に古くから日本の沿岸部には海女文化が根付き、人が海からの恩恵を受け共生してきたことなど、弥生時代の鹿角製アワビオコシを触ることで、参加者はより強く感じたようです。

最後に特別展示室での資料解説にて、伊勢志摩の海女の浮世絵からは、伊勢神宮や参宮文化の発展、日本の信仰・儀礼に海女が深く関わった歴史がうかがわれ、橋本貞秀作の浮世絵からは、150 年ほど前すでにカギ状の獲物をとる道具があったことがわかるなど、海女習俗の移り変わりや、古くからの人と海との親近性をより深く理解してもらうことができました。
展示室内で浮世絵に描かれたタコを数えて最初に正解した方には、鯨と海女の研究室から提供を受けた、海女の浮世絵の絵葉書セットをプレゼントしました。一方的に話すだけでなく、クイズやゲーム感覚を取り入れて楽しみながら浮世絵を熱心に見てもらうことにより、海女や海への信仰、多様な民俗について各自が新たな発見、学習をするよう促しました。

【参加者の声】

◯海女の性質を文化として理解できてとても楽しかったです。説明が順序良く、理解しやすかったです。

◯浮世絵から海女の歴史と伝承がよく分かって面白かった。弥生時代の道具もさわることができて貴重な体験になりました。

◯浮世絵を見ることで、時代によって海女に対する見方が変わっていることがわかり、海女に興味を持つことができました。

■③海女のおまじない　まるごと貝紫染め

【開催日時】平成 28 年５月７日（土）11：00 ～ 15：00
【開催場所】海の博物館映像ホール・体験学習室及び周辺の海浜部
【参加者数】５人
【実施内容・目的】

●海女が魔除けの印を記すためにも使用した染色方法の体験。室内での作業だけでなく、海女のように海岸部へ出て原料となる貝を採取することで、海女が操業する環境や、海を敬い、大切にするこころを学びました。

●イボニシから採取した黄緑色の液体が太陽の光にあたり紫色になるという不思議な現象を実体験することによって、海女の信仰や海の生物に対しても関心を高めてもらうことができました。

最初に映像で学習

貝紫染めに使用できる貝類の説明

鳥羽磯部漁業協同組合浦村支所の許可を得て、潮が引いたあとの桟橋の脚や岩の上など、貝紫染めの原料となる貝（イボニシ・レイシ）を採取しました。
他にも様々な貝類が岩にくっついており、潮の満ち引きや海の生物学習にもなりました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

貝紫染めで着物もつくられた鈴木節氏（鈴木染織工房）を講師に招き、コースターや花瓶敷、時間がある方はトートバッグにも染付を体験してもらいました。日常生活で愛用できる品に染め付けることによって、海女の信仰や海の生物を身近に感じてもらうことができました。貝殻を割ってそれぞれにごくわずか入っている液（さいか腺）を取り出し、型紙で染付を体験します。３５００以上前から続く染色方法を体験し、人と海との長きにわたる共生関係を改めて感じ取ってもらう機会となりました。

染め付けたものは太陽の光にあてると、みるみるうちに黄色から色が変わり、２０分ほどで赤みがかった紫になりました。貝が生み出す不思議な現象を見て、体験し、海の生物や環境への関心を高めてもらうことができました。

【参加者の声】

◯貝のことや海藻のことを教わりながら海辺を歩くことができて楽しかったです。

◯イボニシが何をたべるかのかがわかって、よく学ぶことができたと思います。黄色が紫になるのも楽しかったです。

◯いつもよく見かける貝が染物になるとは知らなかったので驚き、興味を持てました。とてもきれいになって面白かったです。

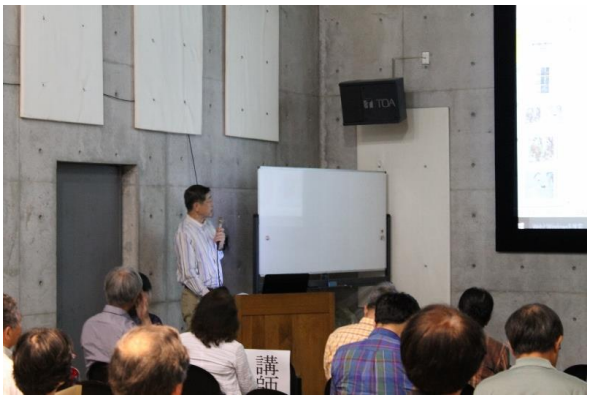
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■④講演会「浮世絵に描かれた海女」

【開催日時】平成 28 年 6 月 18 日（土）13：30～15：00

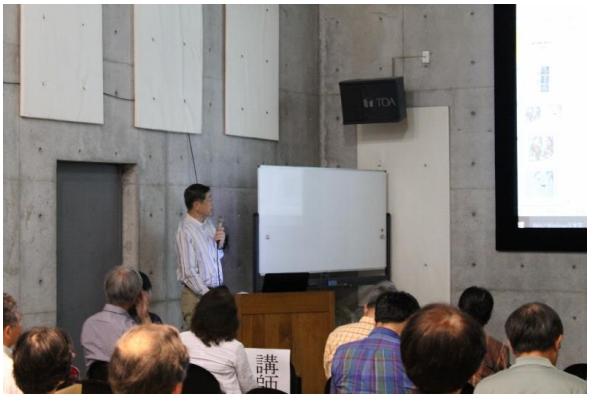
【開催場所】海の博物館映像ホール
【参加者数】　40 人
【実施内容・目的】
- ●海女を描いた浮世絵について、千葉市美術館の田辺昌子氏と鯨と海女の研究室の松浦信也氏を講師に迎え、美術史と民俗の両観点から解説をすることにより、海女の漁や暮らし、信仰をより総合的、多面的に理解してもらうための講演会を開催しました。
- ●両講師とも画像を多用していただき、参加者は目で見て分かりやすく、描写の特徴や、海女習俗の価値を理解してもらうことができました。

会場全景


各講師が専門分野から海女について解説

美術史を専門とする田辺先生からは、浮世絵の製造工程や販売方法など、基本的な事項の解説後、玉取姫伝説を中心に、海女伝承を題材にした浮世絵について、描写方法の変遷を 17 世紀の作から時代を追って解説していただきました。
また作例をあげながら、非常の多くの絵師が海女の姿や漁風景に惹かれて作品を残しており、現代の人気歌手のステージ衣装デザインにも取り入れられる点など、海女を素材にした表現方法について幅広くお話をしていただきました。
本展では網羅できなかった海女の浮世絵の紹介や、十分ではなかった美術史的観点からの解説により、展示で不足していた部分を補い、本展内容をより深化し、多面的に理解していただくことができました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



松浦氏からは、古来重要な役割を持ちながらも現在失われつつある漁撈習俗であるからこそ、その価値を見直すために海女関連の資料を蒐集していること、100 年以上前の外国人博物学者や GHQ も海女の記録写真を残していること、三重県の伝統工芸・日永うちわのデザインにも海女が使用されていることなどをお話ししていただきました。
両講師とも、浮世絵に多数描かれていることはもちろん、近現代に至るまで海女が多方面から注目されていることにつき実例を挙げてお話ししていただいたことで、国内外でながく人の心を魅了し続ける海女、日本の海村文化の価値を見直す機会となりました。

【参加者の声】

○海女漁はずっと昔から資源を大切にし、守ることの必要性を認識していたことがわかりました。海女や漁師だけでなく、日本全体で海を守ってゆくことが大切であると思いました。

○講演を聞いてから展示を見て、海女の風俗や民俗文化がよく理解できました。

○女性の働きがイキイキと文化資料のなかに生き続け、しかも長く幅広く注目を集めてきたことがうれしく思いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

- 本事業は世界的にも人気の高い浮世絵を素材にし、かつ海女漁という特定の漁撈習俗にテーマを絞った珍しい手法により、広く関心を集めました。また展示内容としては、民俗や環境、海村の社会といった観点からの解説を充実させたことにより、海女の習俗、文化を継承することの必要性、獲物をとる海の環境を守り、共生してゆくことの重要性を多くの人に感じてもらうことができました。
- 絵画資料を基にし、海女が使用する道具や漁獲方法、くらしの様子、各地の伝承などについて、目で見て分かりやすく伝えることができました。また触ることのできる模型・資料やワークシートを有効に使い、楽しみながら、展示内容を理解してもらえるよう工夫しました。
- 地元漁業協同組合や企業とも連携し、充実した付属事業を実施することができました。ワカメ・ヒジキ刈体験と貝紫染め体験では、海女漁や信仰への理解を深めるとともに、実際海岸部へでて採取作業をしながら様々な生物を観察したことにより、海の生物や環境、海洋資源の利用への興味を喚起することができました。
  またミュージアムトークと講演会では、画像も多数利用したわかりやすい解説が好評を得て、海女文化がながく、広く、人々の関心を集め続けてきたことを多くの方が認識し、その価値を見直す機会となりました。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．鳥羽市教育委員会、志摩市教育委員会	教育関係機関への広報協力
2．海女振興協議会	地域の海女への広報協力
3．鯨と海女の研究室	展示資料借用及び情報提供
4．東京海洋大学海洋政策学部門　小暮修三研究室	展示資料借用及び情報提供
5．鳥羽磯部漁業協同組合浦村支所	海での海藻・貝類の採捕許可、事業実施にあたっての助言
6．海づくりプロジェクト（北村物産、若松屋）	地元企業による付属事業への参画、海藻の加工

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．朝日新聞	海女の姿描いた浮世絵の特別展（平成 28 年 3 月 20 日）
2．毎日新聞	海女絵がいた浮世絵 44 点（平成 28 年 4 月 3 日）
3．読売新聞	海女　浮世絵で知って（平成 28 年 4 月 24 日）
4．中日新聞	海女の浮世絵　図録に（平成 28 年 7 月 1 日）
5．『ジパング倶楽部』	日本一の海女さんの町（平成 28 年 6 月号）
6．『日経インテレッセ』	海女に着目した浮世絵を公開（平成 28 年 7 月号）

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。